

## 「CIFA(キャムデン国際友好協会)と KIRA の絆」

堀口美鈴（引率者）

振り返ると、あっという間の半年間でした。

3月から柏市の中高等学校などに派遣生募集のパンフレットの配布を開始し、5月に面接を行い、6月からは計5回のオリエンテーションを行いました。オリエンテーションでは、英語での自己紹介や、現地幼稚園及びブッシュダンスパーティーで披露するパフォーマンスの練習などを中心に様々な派遣準備を進めてきました。英語での自己紹介は、始めのうちはやや緊張気味だった派遣生も3回目のオリエンテーションあたりから原稿を見ずに発表できるようになり、現地ではホストファミリーなど多数の方々が見守る中、皆堂々と発表することができました。キャムデン町議員のEvaさんからは「Exceptional なスピーチだったので、自分で自分を褒めてあげてください」というお言葉も頂きました。今回の派遣生はこのような成功体験を糧として、さらなるチャレンジに繋げることに長けた、頼もしい派遣生でした。

キャムデン町に初めての派遣生が訪問したのは1994年です。人間関係の中核にある人と人との絆を簡単に築くことは難しいですが、CIFAとKIRAは長い年月をかけ、信頼関係を築いてきました。滞在中、CIFA、ホストファミリー、ボランティアの方々から手厚いサポートを受けましたが、彼らの心からの笑顔で私は異文化の中で容易に自分の居場所を見つけることができました。ホームステイ先として、私はダンク家にお世話になりましたが、二人の娘さんもこの派遣事業で日本にいらしたことがあり、またダンクご夫妻も昨年柏市を訪問されました。彼らは面識のない私を家に受け入れ、家族のように接してくださいました。それはまさに諸先輩方が築きあげた信頼の絆のお陰だと強く感じました。CIFAは教育に携わっているメンバーの方が多いのですが、リーメン会長は、「ホームステイという実体験から互いの文化や考えを学び、相互理解を深めてほしい」と熱く語ってくださいました。

少々話が飛躍しますが、昨今日本では、高齢化、少子化による労働者不足に対応するため海外から多くの外国人労働者を受け入れています。柏市でも外国人登録数が増加し、現在9千人に達しようという勢いです。そうした方々が地域社会の構成員として共に生きていけるよう、一個人として何ができるかを常に考えてきましたが、今回の経験で多文化共生のためのヒントを得ることができたように思います。

最後に、本派遣事業にご尽力いただいた皆様に感謝の意を表したいと思います。



ボンダイビーチにて